登山の列に有毒ガス

高女生2人が死ぬ

17人重軽症

林間学級中の惨事

本白根山

激震現場付近から救出される生徒［本白根山の通称・ガンバ沢］

三日朝、群馬・長野両県境にある信越高原国立公園内の本白根山（二、七七四㍍）で、夏休みの校外活動に参加していた女子高校グループ引率の教師ら三十八人が有毒の硫化水素ガスに襲われ、ガスを吸った女生徒一人が死亡、教師一人も含む十七人の重軽症のガス中毒にかかった。信越高原国立公園内では二十六年ぶり、スキー中の六人が死亡の有毒ガスによる惨事、二度目の大きなショックを受けている。

一昨日午後三時ごろ、草津温泉から約一キロ、登山口の万座高原ホテルから約一・八キロ登った本白根山の中腹の谷間を毛バイ

五人の引率教師三人が、ガンバ沢から噴き出ている硫化水素ガスを吸い、次々に倒れた。

教師の一人が倒れた生徒たちに呼びかけているうち、異臭を感じ、現場を離れようとしたが、自らもガスを吸い込んで倒れた。

野反湖に臨時診療所を開いた、同高原地元医師団（長野県北佐久郡軽井沢町）と草津町の医師ら約一〇人が救助のため現場へ急行、重症者らを救助用ヘリコプターなどで同町の病院に収容したが、同日夜一時すぎまでに、さらに二人が死亡した。

死亡したのは、いずれも二年生の女生徒で、二人とも同じ班の同じテントの中で倒れていた。

一緒に登山していた二年生の女生徒二十人と教師三人のうち、教師二人と生徒一人は、ガンバ沢から約一キロ離れた本白根山中腹の登山道を毛バイで下山中、ガンバ沢から噴き出ている硫化水素ガスに襲われ、倒れた。

この二人が中毒死。

残る生徒の女子二人が後遺症の重傷、十五人が軽いガス中毒にかかった。

同校では夏休みに入った直後から、同山頂付近にある、山の家（一年生を対象に開かれる一泊の林間学級）を利用して、二泊三日の日程で、二年生四十二人と引率教師四人の生徒三十六人が参加、三日朝、山の家を出発、二泊三日の日程を終えて四日夕、帰校する予定だった。

三日は予定通り、山の家を出発、本白根山に登り、ガンバ沢付近にさしかかったとき、ガスに襲われた。

ガスは、ガンバ沢から噴き出ているが、風の向きや強さによって、ガスの流れる場所が変わるため、ガンバ沢付近を通る登山者は、ガスの噴き出し口を見ながら通っているが、ガスの流れる場所が変わるため、ガンバ沢付近を通る登山者は、ガスの噴き出し口を見ながら通っているが、ガスの流れる場所が変わるため、ガンバ沢付近を通る登山者は、ガスの噴き出し口を見ながら通っている。

ガスは、無色透明で、硫黄臭があり、空気より重く、地表を這うように流れる性質がある